

# 全神労協 「神鋼グループ中国企業 視察団」に参加して



執行委員 井 上 育 也

## はじめに

執行委員の井上です。今回私は神戸製鋼グループの労働組合で構成される、全神鋼労働組合協議会（全神労協）主催による「神鋼グループ中国企業視察団」の一員として6月2日から9日の8日間、中国を訪問しました。

本日はセミナーの貴重な時間を頂戴して、視察団参加報告と帰国後自分なりに勉強した中国の歴史・文化などの紹介をさせていただきたいと思います。

経済・社会のグローバル化に伴い、日本の企業における海外戦略は、ますます重要性を増し

ており、海外拠点の整備や現地企業との連携など、海外における企業活動の拡充に伴い日本からの長期出張や現地法人への出向等が行われています。労働組合としても海外市場の動向調査、海外拠点での企業活動の実態把握等を行い、企業の海外戦略についての認識を深めるとともに、就業実態・生活環境等の実態把握ならびに現地労働者の労働条件等の把握も必要になっています。

全神労協加盟組合の各企業においても多くの海外拠点を有する中、複数の生産拠点が存在し、かつ市場経済の成長が著しい中国を訪問し、市場動向や企業活動の実態把握と、そこで働く長期出張者・海外出向者等の実態把握や現地の労



中国を代表する城門 天安門

働条件等の把握を行い、今後の組合活動へ生かしていくことを目的とし、各企業を訪問しました。

## 中華人民共和国とは

まずはじめに「中国」という国の概要について説明したいと思います。

中国は東アジアの東中部、太平洋西岸に位置し、総面積は約960万平方kmと世界陸地面積の1/15を占め、ヨーロッパの総面積とほぼ同じとなっています。東西5,200km、南北5,500kmの広大な国土は、海岸線は1,800kmで、沿海には5,000以上の島があり、陸地の国境線は約20,000kmあります。また人口は2000年11月時点で12億6,583万人と発表されています。

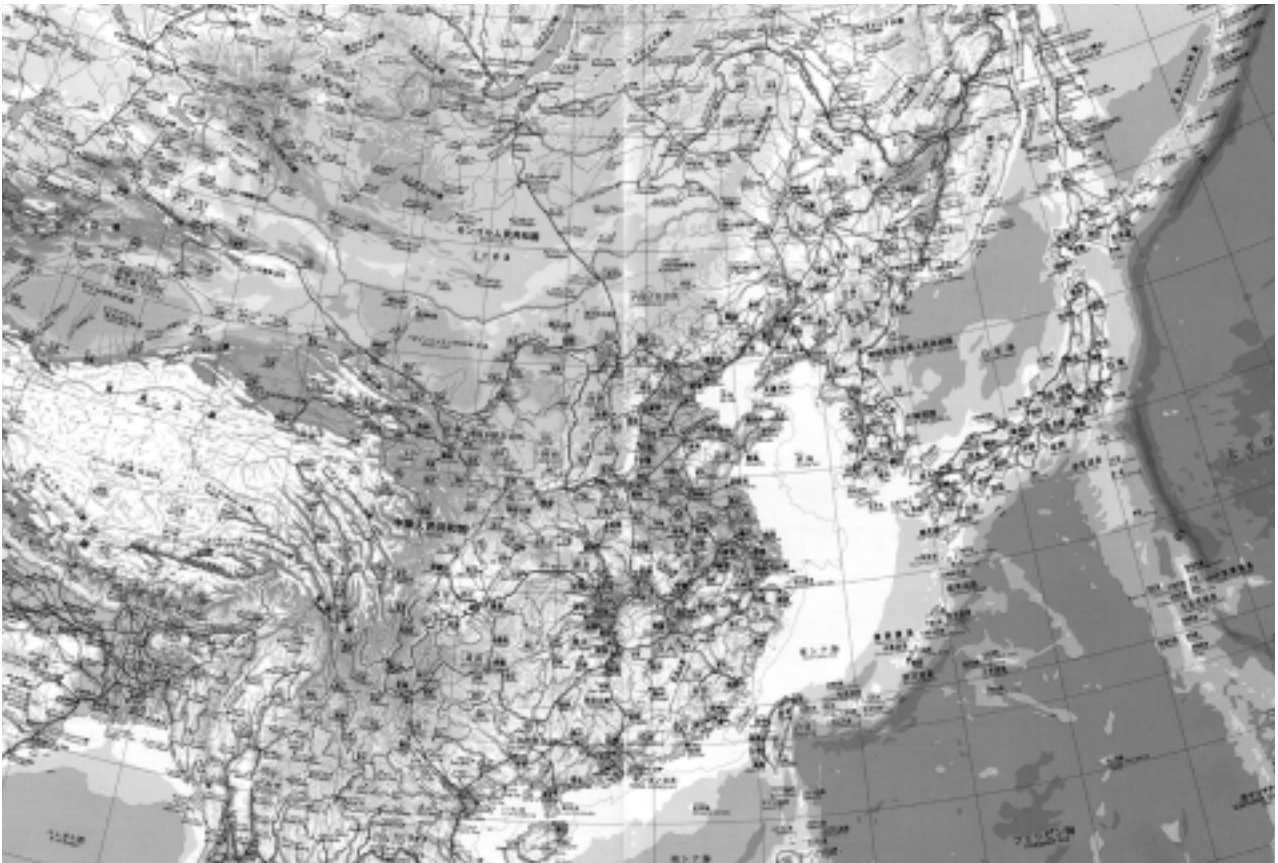
中国の地勢は西高東低で、3つの段に分ける

ことができます。最上段は西南部の青蔵（青海チベット）高原で『世界の屋根』といわれ、平均海拔は4,500mで、全国土の約1/4を占めます。世界最高峰のチョモランマ（8,848m）をはじめ8,000mを超える山が11峰あります。

中段（海拔1,000～2,000m）は、内蒙古自治区の『内モンゴル高原』、華北に広がる『黄土高原』、貴州から雲南省にまたがる『雲貴高原』という3つの高原と、3つの盆地（タリム盆地、ジュンガル盆地、四川盆地）があります。

第3段（1,000m以下）は、東北地方に広がる『東北平原』、黄河流域の『華北平原』、長江を中心に広がる『長江中下流平原』の三大平原で、国民の多くがこのエリアに居住しています。

また、中国には川と湖がたくさんあります。大きな川は、華北の黄河、華中の長江、華南の珠江の3つで、なかでも長江は全長6,300kmで、アジアでいちばん長く、世界でも3番目になり



東西5,200km 南北5,500kmの広大な中国全土



中国の行政単位 市、省、区

ます。湖は、100平方km前後のものが130以上あり、その多くは長江流域にあります。

しかし、全体的には山地と高原が国土の1/3を占め、耕地面積は1/10に過ぎません。1人あたりにすると0.1haにも満たず、世界平均の1/4の耕作面積しかありません。

また中国は国土が広いので、気候は複雑多様で、寒帯、温帯、亜熱帯、熱帯と、ほぼすべての気候帯が存在します。中国は緯度の差が大きく、北方は緯度が高くて日照時間が短く、南方はその逆となります。南北の気温差は冬に顕著にあらわれ、1月のハルビンと広州の気温差は33にもなります。東の沿岸部と西の内陸部でも大きな差があります。沿岸エリアは多雨湿潤で1年間の湿度差が小さく、内陸エリアは乾燥少雨で1年間の温度差が大きくなります。また、北西内陸部では昼と夜の較差も大きく、日中はシャツ1枚で大丈夫なほど暑くなりますが、夜は暖房が必要なほど気温が下がります。

こうしたことから中国は大きく3つの気候区に分けられます。『東部季節風区』は東部に広がる平野部で、温度や湿度が人が住むのに適していて、沿岸部には中国を代表する大都市が多くあります。『西北乾燥区』は中国の西北地方に広がる高地で、荒涼とした土地が続きます。

シルクロードがあるエリアは、この気候区に入ります。『チベット高原乾寒区』は、チベット高原全域にあたり平均標高は4,000m以上になって、1年中乾燥していて気温も低くなっています。

国土は、行政上、北京市、上海市、天津市、重慶市という4つの直轄地、河北省、江蘇省、広東省など22の省、チベット自治区、広西チワン族自治区など5つの自治区に分けられており、これが日本の都道府県にあたります。そして、その下に県と市があり、日本の市町村にあたります。さらにこの下に、鎮、郷という最小の行政単位があり、中国の行政単位は、大きく3つのレベルに分かれています。

中国は多民族国家で、56の民族がそれぞれの言語をもっていますが、人口の大部分を占める漢族が使用する漢語が公用語として使われています。しかし、漢族の話す言葉はエリアによって差が激しく、北京語と上海語ではまったく意思の疎通が図れません。一般的に中国語といわれている言語は、正確には『普通話』と呼ばれる北京官話（北京の官僚が使用していた言葉）をもとにしたもので、この普通話が公用語として中国国内でも使用されています。

労働事情視察 1  
 ~ 天津神鋼電機有限公司  
 ( 神鋼電機(株)関係会社 ) ~

天津神鋼電機有限公司は、北京の南東約200kmの天津市にあります。天津市(略称:津)は華北平原の北東部に位置し、北には燕山が、東には渤海があり、華北地方最大の貿易港をもつ港湾都市で、工業基地の一つとして重要な役割を果たしています。北京市、上海市、重慶市とともに中国の直轄市の一つになっており、市の面積は11,305平方km、人口は約900万人となっています。

日本の神鋼電機(株)と中国の天津電機控股有限公司・天津市机床電機等の合弁により1994年8月22日に設立されました。資本金は300万USドル、現在の従業員は145名(男性44名、女性101名)で、主製品として複写機の給紙用OAマイクロ電磁クラッチおよび汎用電磁クラッチの製造を行っています。それぞれの工程において各人のノルマがあり、達成のために昼休み返上で業務に励んでいます。ペナルティー(罰金)制度があり、与えられた仕事に対しては一生懸命仕事に取り組む反面、業務改善・自己啓発等には不熱心で「もっと前向きに取り組んで欲しい」との綾総経理の言葉がありました。

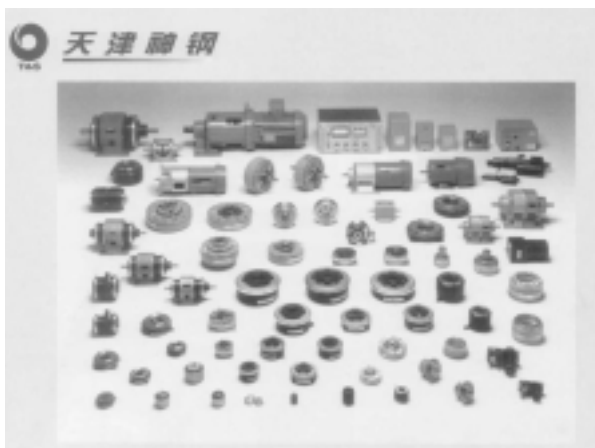
中国国内では、厳しい輸入制限もあって、中国へ進出した各複写機メーカーからの需要が



主要製品として生産される複写機用マイクロクラッチ

年々増加し、ようやく昨年には黒字化が達成できたそうです。従業員の給与は、基本給1,000元+時間外手当500元(1元=15円)と中国国内ではやや高いようですが、臨時社員(日給25元)を30名ほど雇い、仕事量の繁閑やトータルの人件費を調整しているとのことでした。

一方、福利厚生面では、食堂は数十名しか入れない大きさで、従業員は廊下で立ったまま昼食をとっているそうです。また冬場では零下20℃まで気温が下がり、スチームヒーターはあるものの、職場環境も含めて福利厚生はこれからという一面を見ることが出来ました。



神鋼電機・製品一覧

中国事情 1 ~ 北京市 ~

中華人民共和国の首都である北京は、中国の政治と文化の中心です。北緯39度56分、東経116度20分に位置し、華北平野最大の都市です。市の総面積は16,808平方kmで、人口は1,100万を

超えます。三方を山に囲まれ、山地が総面積の62%を占めます。東南部にひらけた平地は渤海までなだらかに続いています。

温帯大陸性気候の特徴をもつ北京は、四季ははっきりしていて、春と秋が短く、冬と夏が長くなっています。1年の平均気温は11.8℃です。花咲き誇る春、緑萌ゆる夏、楓色づく秋、雪の舞う冬、1年を通じて異なる趣を楽しむことができます。

北京の歴史は長く、市区の南西50kmにある周口店では、すでに69万年前に北京原人が生活していました。周の時代（紀元前1000年頃～）になると、北京は薊（けい）と名付けられ、城が築かれて国としてのかたちが出ていきました。それが戦国時代（紀元前453 - 221年）になると、当時の強国の1つである燕（えん）の都となり、発展を遂げることとなりました。

その後、唐代（618 - 907年）には幽州（ゆうしゅう）と呼ばれ、遼代（北方遊牧民族国家、907 - 1127年）には副首都として燕京と呼ばれました。

金代（1127 - 1271年）の中期になると城壁が築かれ、中都（ちゅうと）と称されました。そして13世紀の中期には、元朝（1271 - 1368年）が中都旧城の北東部に新たに築城し、大都（だいと）と呼ばれる都を造りました。大都是現在の中南海と北海を中心にした方形の城で、現在の北京の原型になりました。1368年、明の太祖朱元璋は南京を都に定め、大都を北平（ほくへい）と改称しましたが、第3代永楽帝（えいらくてい）は再び北京へ遷都し、北京という名称にしました。

以後、 - 時的な名称の変更や遷都はありましたが、約600年にわたり北京は中国の首都として君臨し続けてきました。

したがって、このような歴史的背景をもつ北京には、万里長城や故宮などの名所旧跡がたくさん残っており、現在でも世界中から多くの旅行者が訪れています。

#### ～歴代王朝の王宮・故宮～

紫禁城とも呼ばれる明王朝と清王朝の王宮

で、1420年（明の永楽18年）に竣工し、1911年に最後の皇帝（ラストエンペラー）溥儀が退位するまで、24人の皇帝がおよそ500年にわたってここを封建統治の中心としてきました。総面積は72万平方メートルで、周囲は高さ10mの城壁で囲まれており、城壁のまわりには幅52mの濠が巡らされ、城壁の四隅には物見台の望楼が立っています。王宮としては世界最大級の規模を誇り、宮内の建築物には貴重なものが多くあります。

故宮は、南の午門から北の神武門を中心に左右対称に造られ、両側には多くの建築物や庭園が密集しており、現存する部屋だけでも7,800と、その規模の大きさがうかがえます。故宮の中心部は外朝と内廷に分かれており、乾清門を境に、南側の外朝では国家的行事や各種の式典が行われ、北側の内廷は皇帝の日常生活の場で多くの女官や宦官が暮らしていました。

外朝の中核をなす三大殿（太和殿、中和殿、保和殿）は、大理石の基台の上に建てられており、いちばん南にある太和殿は中国最大の木造建築物で、皇帝の即位、遠征、冬至の儀典などに使用されました。中央の中和殿は皇帝のとりおこなう式典の準備や休憩をする場所であり、北の保和殿では年末に外藩やモンゴルの王族を招いて大宴会が催されたり、科挙（かきよ）（官吏登用試験）の最終試験である殿試（皇帝自らが行う試験）の会場として使われました。乾清門をくぐった内廷は、乾清宮、交泰殿、坤寧宮の3つ



故宮・太和殿

の建築物を中心に構成されています。

乾清宮は、日常においては皇帝の執務室・寝室であり、皇帝が亡くなったときには棺が安置される場所であり、交泰殿は、皇后の誕生日の祝いを行う場所でした。また、ここは乾隆帝が厳選した25の玉璽を収蔵していることでも有名です。坤寧宮は、明代には皇后の寝室として使われていましたが、清代には皇帝と皇后が行う祭礼儀式的場所となり、皇帝と皇后の結婚後の寝室としても使用されました。

このほか、東側には紫禁城の宝物を展示している珍宝館、鐘表館、絵画館があり、その北にある暢音節は京劇の舞台だったところで、当時の舞台がそのまま残っています。

#### ～ 中国を代表する城門・天安門～

天安門広場の北に位置し、宮殿の正門として1417年（明の永楽15年）に建てられ、承天門と名付けられました。その後2回にわたって落雷で焼失し、1651年（清の順治8年）もとの城門をさらに大きくして33.7mの高さをもつ現在の城門に造り直し、名も天安門と改称されました。

赤い煉瓦造りの壁に黄色い瑠璃瓦をもつ朱塗り2階建ての宮殿建築式楼閣で、明・清時代には皇帝の即位や皇后の冊立といった重要な国事の際にここで詔書を発布しました。

1949年10月1日には毛沢東がこの城楼で中華人民共和国の成立を世界に宣言し、それ以来、



天安門広場

天安門は中央部に中国国章や毛沢東の肖像が掛けられるなど、中国のシンボリック的存在となっています。

#### ～ 数々の歴史の舞台となった天安門広場～

天安門広場は北京市の中心に位置します。40万平方メートル余りの面積をもち、1度に50万人を収容できる世界最大の広場として有名です。もとの面積は10万平方メートルでしたが、中華人民共和国成立後、2度にわたって拡張され、現在の規模となりました。

明・清時代には皇帝の即位式や科挙の最終採用試験を行う皇帝専用のスペースであり、当時の庶民は通行はもちろん広場を覗くだけでも厳罰に処せられました。1911年の辛亥革命により最後の清王朝が倒れたあと、ようやく一般公開され、それ以後、五四運動、第一次天安門事件、1989年6月4日の第二次天安門事件など、たびたび歴史の重要な舞台となりました。

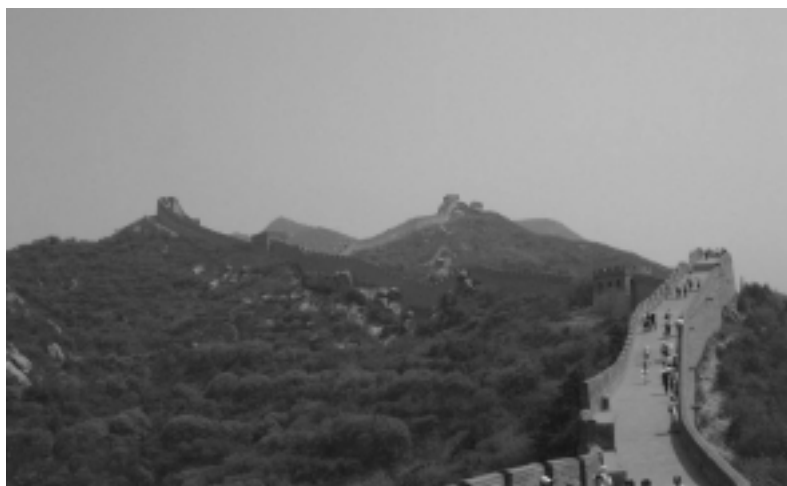
現在は市民の憩いの場となっていて、週末にはタコあげをする人などでにぎわっています。毎朝、解放軍の兵士による国旗掲揚のセレモニーが行われています。1999年10月に全面改修工事が終わり、緑豊かな広場になりました。

天安門広場の中央にある人民英雄記念碑は、新中国成立のために犠牲となった人々を追悼するため、1958年に建てられた記念塔です。高さは約40mで表には毛沢東の自筆文字『人民英雄永垂不朽』（人民の英雄は永遠に不滅）が金文字で彫られており、裏には周恩来の書いた題詞があります。

#### ～ 世界一大きな建築物、万里長城～

万里の長城といえば宇宙から確認できる建築物として有名です。東は河北省の山海関から西は甘粛省の嘉峪関まで、全長6,350km、中国の距離の単位『里』（1里=0.5km）に換算すると、1万里を越えるので、万里の長城と呼ばれています。

紀元前221年中国を統一した秦の始皇帝は、



万里長城

春秋戦国時代の国境線の城壁をつないで強固にし、北方遊牧民族の侵入を防ぎました。この時代の長城（嘉峪関などに残っている）は秦長城と呼ばれています。

その後の各王朝も長城の建築を続けましたが、とくに明代には東北で勢力を伸ばしていた女真族の侵攻に備えるため、それまで土壁であった長城は巨大なレンガと石材を使った頑丈なものへと変えられました。北京市内に残っている長城では、八達嶺、慕田峪、司馬台の3カ所が有名です。八達嶺長城は北京市北部約70kmの延慶県にある、燕山山脈の都軍山に築かれた明代の長城で、北京周辺ではもっとも早く修復された観光用の長城です。登城口から左側は急勾配で登る人が少ないようですが、右側はなだらかで楽に歩くことができます。また、北京から八達嶺に行く途中には、難攻不落の関所居庸関があり、このあたりは山脈が連なる険しい地勢で、すばらしい景色でした。

労働事情視察 2  
～ 撫順高周波鑄造有限公司  
(日本高周波鋼業(株)関係会社)

撫順高周波鑄造有限公司は、北京の北東約700 kmに位置する撫順市にあります。撫順市は石炭の開発と利用を基礎に発展してきた工業都市

で、中国では「石炭の都」と呼ばれています。撫順市近郊では石炭の露天掘りが行われていて展望台も設置された「撫順西露天掘」は、大きさが幅6.5 km、奥行き3 kmと想像を絶するものでした。経済建設の発展に従って総合的な重工業都市に成長しており、交通の面でも撫順の中心地から瀋陽の桃仙空港まで40km、営口港までは200km、大連港までは400kmで、いずれも高速道路で結ばれています。

私たちが訪問した撫順高周波鑄造有限公司は、撫順市聯合鑄造廠および日本高周波鋼業(株)等の合併により1996年3月1日設立されました。資本金は5,500万元、従業員325名(内女性は約1/3)、生産量は500ton/月、主製品は水道配管関係の鑄鋼製エルボ、チー、パン



撫順西露天掘



撫順高周波 製品一覧と  
工場内の様子

ド等です。化学成分分析装置、鋳型用プレス、クレーン等の生産設備はあるものの、鋳込、砂落とし、型ばらし、ショットブラスト、仕上げ（グラインダ加工）等の製作工程では、ほとんどが人海戦術で行われていて安全・衛生面では決して好ましいとは言えない状態でした。従業員の平均年齢は40歳で、平均賃金は基本給500元+時間外等手当500元程度です。撫順市内で就労者の約1/3が失業中で、「高周波の従業員は、仕事があり毎月一定の収入があるため、会社への貢献度が高く一生懸命働く」との竹本総経理のことばが印象的でした。設備を導入し、生産効率を上げようとする日本の発想の前に、豊富で安価な労働力を使った中国ならではの仕事をりを実感することが出来ました。

労働事情視察3  
～ 成都神鋼建設機械有限公司  
(コベルコ建機(株)関係会社)

四川省の省都である成都是四川盆地の西部に位置する巨大な都市です。北京より西南西約1,700kmに位置します。面積は12,390平方km、人口は約960万人です。古来より天府の国と呼ばれ、四川省の政治、商業、交通の中心となっ

てきました。7区4市8県で構成され、気候は温暖ですが、盆地のため夏が蒸し暑くなります。成都の歴史は、2,500年前の周時代に古蜀王開明9世が築城したことに始まります。都市名は『一年成邑、二年成都（1年で邑が成り2年で都が成る）』から来ています。漢代にはすでに中国有数の大都市となっており、三国時代には蜀漢として劉備玄德が治めました。

成都神鋼建設機械有限公司は、コベルコ建機(株)とホイールローダーの中型機生産メーカーである成都工程機械集团公司との合弁企業で、1994年9月14日に設立されました。パートナーの技術力や経営に関する考え方が合致したこと、今後西南地方が中国第2の中心になり得ることが中国進出の理由です。資本金1,200万USドル、従業員は約200名（内日本人は管理職3名を含む7名が常駐）、中国国内への油圧ショベルの生産・販売・アフターサービスを行っています。内陸部の開発が推進され、かんがい工事や交通インフラ整備による需要拡大が期待されており、2001年度の生産は650台（50台/月）、売上40億円を計画しています。工場内の作業場はコンクリート床にペンキ塗装で識別されており、組立・検査（試運転）場は整然としていました。油圧ショベルのアーム部は、製缶・溶接・機械加工という工程になっていますが、こちらも整理・整頓が行き届き、日本の工場顔負けの状態でした。中国の技術レベルについては、日本での技術研修の効果もあり、遜色はな



成都神鋼建機





成都神鋼建機 工場風景

いものの、細かい管理が出来ない、深い思考過程が出来ない、問題解決への執着心が薄い等、山下総経理の中国従業員への思いは個人主義という国民性はあるものの、日本の若い技術者へも同様に問いかけられているようでした。

## 中国史 1 ~ モンゴル帝国 ~

ここでは、13世紀から14世紀の中頃までの、中国全土が初めて漢民族以外のモンゴル族によって支配されたモンゴル帝国（元）の歴史を紹介したいと思います。

### チンギス・ハンの出現

外モンゴル（現在のモンゴル人民共和国のあたり）の中心は、オルホン、トラ、セレンガの三大河が合流するあたりにあります。12世紀の後半、この地方には、ケレイト、メルキト、タイチウトなどの諸部族がいて、その西方にはトルコ系のナイマン部族がいました。これらの部族はモンゴルの統一をめざして、互いに争っていました。そんな中で父イエスゲイをタタール族に殺されたモンゴル族のテムジンが、次第にモンゴル族をまとめるようになり、ケレイト族、西方のナイマン族をたおし、モンゴルの諸部族を統一しました。そして1206年、オノン川のほとりで開かれたクリルタイ（部族の族長合議）で、テムジンは、各部族の長に選ばれ、チンギス・ハンと名乗りました。

### チンギス・ハンの遠征

モンゴルを統一したチンギス・ハンは、1209年、兵をひきいて南下し、西夏を討ち、ついでウイグルを従わせました。1214年には金の都燕京をせめて降伏させ、翌年には燕京を占領しました。こうして南方を征服したチンギス・ハンは、次に西方に大遠征を行いました。1218年には、まず遼から分かれた西遼を平定し、ついでホラズム王国と貿易を行うため、らくだ500頭からなる大隊商（キャラバン）を送りました。ところがこの隊商がオトラルで襲われ、荷物を奪われたうえに殺されてしまったのです。怒ったチンギス・ハンは大軍をひきいて、ホラズム征伐に向かいました。チンギス・ハンはホラズムの王子を追ってインダス川のほとりまで行きました。ほかの軍勢は、コーカサス、南ロシアをまわり、チンギス・ハンと合流して、1225年、西方遠征を終えてモンゴルに帰りました。チンギス・ハンは帰国するとまもなく、一時中止していた西夏と金への遠征を再開しました。1227年には西夏を滅ぼしましたが、この戦いの間に病死しました。その遺体はモンゴルに運ばれ、オノン、ケルレン川の源にあるブルカン山に葬られましたが、その墓は、今もまだ発見されていません。

### ヨーロッパ、イランの遠征

チンギス・ハンのあとをついだ第二代オゴタイ・ハンは、金をほろぼし、高麗を討ち、1235年、甥のバトゥが率いる50万の大軍を西方遠征に向かわせました。バトゥ軍は1237年、ロシアに侵入し、ついでヨーロッパに向かいました。とくにポーランドに向かった軍勢は、ワールシユクツトでドイツ・ポーランドの連合軍を破り、ハンガリー、オーストリアを侵略し、イタリアのベネチアに迫りました。ヨーロッパの人びとはモンゴル軍にふるえあがりましたが、1241年、オゴタイ・ハンの死の知らせが届き、全軍が引き返しました。しかしバトゥは、サライに留まり、キプチャク・ハン国を建てました。

ついで1256年、第4代モンケ・ハンは、弟のフラグを西方に遠征させました。フラグは1258年にバグダードを攻め落として、アッパース朝を倒しました。そしてシリアからエジプトに攻め入ろうとしたとき、モンケ・ハンの死が伝えられ、タブリーズに引きかえしてイル・ハン国を建てました。こうしてチンギス・ハンが次男のチャガタイと三男のオゴタイに与えたチャガタイ・ハン国、オゴタイ・ハン国のほかに、キプチャク・ハン国とイル・ハン国の四つのハン国ができたのです。

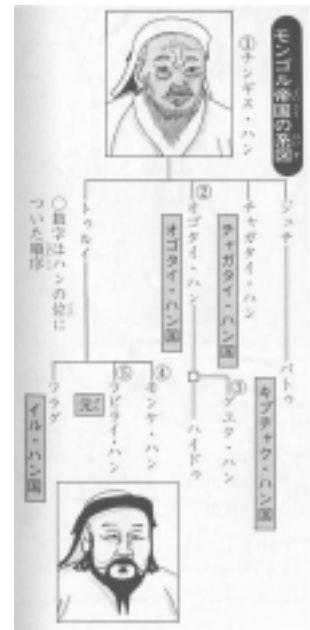
世祖（フビライ）とマルコ・ポーロ

モンケ・ハンは西方遠征を行う一方、弟のフビライと南宋を攻撃していました。ところがモンケ・ハンが戦いの途中で死んだのでフビライがかわって軍隊をまとめ、帰国しました。そしてフビライは1260年、大都（現在の北京）で開かれたクリルタイで第5代ハンの位につきました。フビライ・ハンはやがて南宋を滅ぼし、大都に都を置きました。そして国名を元と改め、元の初代皇帝、世祖となりました。このように東アジア全体を支配した元と四つのハン国によって、モンゴル人によるユーラシア大陸支配は、14世紀半ばまで続きました。モンゴル大帝国の成立によって、シルク・ロード全体がモンゴル人の支配下に入ったのです。モンゴル帝国内には駅伝制度が整えられ、この駅伝を利用して、カルピニヤルブルクなどのヨーロッパの旅行家や使節団がモンゴルを訪れました。その中でも



モンゴル勢力図

最も有名なのが、マルコ・ポーロです。マルコ・ポーロは、その旅行記「東方見聞録」の中に、そのころの中央アジアや中国、モンゴルのことを詳しく書きました。また、初めて日本（ジパング）を黄金の国として世界に紹介し、2回の元寇についても書きました。その旅行記を読んでもみると、ハンドウの乱などによって四ハン国と元が対立し、モンゴル大帝国が力を弱めていくようすがよくわかります。



モンゴル帝国系図

中国事情 2  
～中国の最先端を走るメトロポリス・上海～

上海市は、6,341平方kmの面積に約1,400万の人々が住む中国最大の国際都市です。日本を含む外国列強の租界地として発展してきました。租界地としての古さと、近年の経済発展による新しさが、渾然一体となって成立している特異な都市です。

上海の歴史は700年と浅く、第二次世界大戦前は、欧米列強と日本の諜報員が暗躍し、占領地をめぐる駆け引きが繰り広げられ、アジアでもっとも魅力的かつ危険な魔都として名を馳せました。1949年の中華人民共和国建国以降は、中国経済復興の牽引車となり、80年代以降は改革开放政策のなかで急激にその地位を高めました。

現在は、中国で最先端を走るエキサイティングな都市となっています。バンド（外灘）地区には、租界時代の建築物が建ち並び、ライトアップされたビル群を背景にした夜景が楽しめます。バンド（外灘）の南側、豫園の周辺は伝統

的上海を今に伝えています。また、上海には、<sup>わいかい</sup>淮海路と<sup>なんきん</sup>南京路の2つの巨大な繁華街があります。旧フランス租界である淮海路は、地下鉄の開通で最新流行ストリートとなりつつあり、南京路では、そのネオンサインの多さに、香港と勘違いしてしまいそうになります。どちらの通りにも、ずらりとブランドショップやレストランが並んでいます。ほかに、再開発で一新した四川路、新規開発で盛り上がる空港周辺の虹橋地区、中国経済を牽引する役割を担う大工業団地になる予定の浦東地区などが挙げられます。

#### 上海の過去を象徴する・<sup>ばんど</sup>外灘

バンド（外灘）地区の開発は中国の植民地化とともに始まります。清朝とイギリスの間でアヘン禁輸を巡って勃発したアヘン戦争（1840 - 42年）は、近代兵器を装備したイギリスの圧勝に終わり、その結果締結された南京条約（1842年）によって上海は外国に開港されることになりました。この条約により、イギリス人は上海での商業活動権を獲得し、黄浦江西岸に広がる無人の湿地帯を造成して、商館や住居を建設していき、これがバンドの始まりです。20世紀になると、この地はイギリスだけでなく、欧米列強各国の管理する共同租界となり、ロシア、アメリカ、ドイツなどが進出しました。とくに金融・貿易の中心地として、東アジアでもっとも

重要なエリアとなり、上海は繁栄の頂点を極めました。現在黄浦江沿いに建つ欧風建築物の多くが20世紀の初頭から半ばにかけて建設されたものです。日本も、日清戦争後から徐々に上海に進出し、1931年から1945年まではバンドを含めた上海を半植民地化しました。第二次世界大戦後の1949年に中華人民共和国が建国されると、バンドを含む租界地全体がおよそ200年ぶりに中国人の手に戻りました。そして近年の上海は、発展を遂げる新中国の牽引車として再びクローズアップされるようになり、バンド地区もかつての繁栄とは異なった意味で上海の歴史の象徴として存在意義をもっています。

#### 中国一の総合博物館・上海博物館

上海博物館は、総床面積38万平方メートルを有する中国でもっとも近代的な総合博物館です。世界の四大博物館の一つとして、館内には貴重な文物がたくさん陳列されています。じっくり見てまわると2日はゆうにかかります。博物館は4階建てで、なかは整然としています。フロアはとても広く、1階は中国古代青銅館と古代彫塑館、2階は歴代書法館と絵画館と古代陶器館、3階は古代玉器館と歴代銭幣、4階は少数民族工芸館と歴代印館となっています。日本人のために日本語解説機の貸し出しもありました。



バンド（外灘）地区



上海博物館



13世紀のグラスライニングのつぼ

## 中国史 2 ~ 中華人民共和国の成立 ~

1935年、毛沢東は国民党軍に追われ、瑞金から華北の延安に移りました。これを長征（大西遷）といいます。しかし翌年、西安事件が起こり、1937年7月には盧溝橋事件が原因で日中戦争が始まりました。このため9月になると日本軍に対抗するために国民党と共産党による第二次国共合作が成立しました。

日本軍は華北、南京などを占領しましたが、国民政府は延安に移り、中国共産党は延安に移りながらも、日本軍と戦い続けました。第二次世界大戦後、国民政府と共産党は、再び戦うようになりました。1947年、国民政府軍は延安を占領しましたが、翌年になると共産党軍は中国東北部を占領しました。

日本の降伏後の内戦で主導権を握ったのはアメリカの後押しを受けた国民党でした。兵力・武装両面で共産党を凌駕していましたが、体制の独裁、腐敗によって指揮統率力は低く、徐々に共産党に押され、1949年、ついに台湾に逃れました。国民党を追い出した共産党は、同年10月1日、天安門広場で中華人民共和国の成立を宣言、台湾を除く中国の統一を達成しました。

中華人民共和国は共産党、とくに毛沢東の指導のもと社会主義国家の建設を目指しましたが、社会経済は清朝末期以来、長年に及ぶ混乱

で壊滅状態となっており、さらに米・ソ対立による厳しい国際環境の中、様々な困難に直面しました。その後1950年に勃発した朝鮮戦争によって緩やかな変革は急速な改革に切り替えられ、1958年から始まる大躍進政策の失敗や反右派党争、1966 - 1976年の文化大革命で国内は大混乱に陥りました。

このなか毛沢東、周恩来といった建国の指導者を相次いで失いましたが、1977年鄧小平が三度目の復活を遂げると混乱を收拾し、経済復興を第一に据えた政策を推し進めました。対外的には1972年に日本と、そして1979年にはアメリカと国交を回復し、国際関係の修復にも乗り出しました。さらに現在では外資導入を積極的に進め、急速に経済を発展させています。このように経済面では順調な発展を遂げてい

ますが、地域格差の拡大、拝金主義の蔓延、幹部の汚職、さらには1989年の天安門事件にみられる言論・政治活動の制限、台湾問題など依然問題も多数存在しています。1997年2月には、鄧小平が死去、その鄧小平が生前渴望していた香港が、7月にイギリスから返還されました。1998年、政権は一応順調に江沢民体制に移行され、世界システムへの参加を目指していて、つい先日にはみなさんよくご存じの通り中国にとって念願であった2008年オリンピックの北京で

年代	中国	日本
紀元前3000	新石器時代 (仰光文化・龍山文化など)	
1027	殷(商)	漢文時代
770	周	
475	春秋時代	
221	戦国時代	
206	秦	物生時代
8	前漢	
25	後漢	
220	三国時代	石炭時代
265	西晋	
316	南北朝時代	飛鳥
589	隋	
618	唐	奈良
907	五代十国時代	
960	北宋	平安
1127	南宋	
1271	金	鎌倉
1368	元	
1644	明	寛文
1911	清	
1911	中華民国	明治
1949	中華人民共和国	
		大正
		昭和
		平成

中国年表

の開催が決まりました。

## 最 後 に

地域格差の拡大、拝金主義の蔓延等様々な問題を抱えているものの、経済面では順調に発展を続けている中国です。安価で勤勉な労働力である、中国国内の平均月給は日本円換算で約15,000円と日本の約1/20となっています。コスト競争力で敵わなくなった日本の主要産業が中国で合弁会社を設立し、日本の生産設備がどんどん中国へシフトしています。グローバル化が進む中、わたしたち日本人が「勝ち組」とな

るために、今、どうしなければならないか。いかに付加価値があり、生産性の高い業務をしなければならないかを痛感しました。中国4,000年の歴史と、都市圏での近代化目覚ましい勢いを自分の眼で見ることにより、大国・中国の大きさと深さを体験することができました。今回の中国視察での経験を生かし、一層の努力をしたいと思います。

視察中にご指導いただいた全神労協の方々、そして今回の視察団に派遣してくれたパンテックユニオン会員のみなさまに心から感謝申し上げます。

以 上

参考文献 集英社 中国の歴史



桑原英雄全神労協議長を団長とした視察団（北京空港で）